

「本当の自分の力」

サイコサイバネティクスでは「健全なセルフイメージ」と言っていますが、傷のないセルフイメージは完全でもあります。制限がありません。制限は「傷」と考えることができます。

例えば、赤ちゃんは、「できない」というイメージはありません。これだけ全世界にたくさん赤ちゃんがいるのに、今まで歴史上一人も「歩くことに挫折した赤ちゃん」はいません。これは、非常に面白い事実です。赤ちゃんには、「できない」というイメージがないので、何度も転んでも、歩けるまでトライするわけです。我々があきらめるのは、セルフイメージに傷があるからです。

また、赤ちゃんは、嫌いな人というイメージもありません。どんな極悪な顔の人が来ても、笑顔で接するでしょう。赤ちゃんには、自分も含めて、すべての人が大好きにイメージできているはずですよ。我々が、嫌いな人があるのは、セルフイメージの傷なのです。

傷は、催眠術にかかっているという表現もできます。例えば、どんなに頑張っても握力が50キロしか出ない人が、催眠術にかかり、「これから握るときは、今までに経験したことがない、自分でもびっくりするようなパワーが出ます！」と暗示をかけられて、握力を握ります。そうしたら70キロの握力が出ました。この人の本当の自分の力は、50キロでしょうか？それとも70キロに近いでしょうか？催眠術師がこの人に力を与えたわけではないので、もともとは70キロ以上の力があつたのにもかかわらず、自分で制限を設けて、50キロのパワーしか出さなかったわけです。

「愛」もそうです。親は子供に対して、無条件の「愛」を持っています。これを持っているということは、これがその人の本当の力です。でも、セルフイメージに傷があるので、嫌いなひとがいるわけです。

我々の本当の自分の力は、自分が考えているよりもはるかに大きなものです。そのことを知る必要があります。そして、セルフイメージの傷を取り、健全なセルフイメージを取り戻すのです。